

【講義】

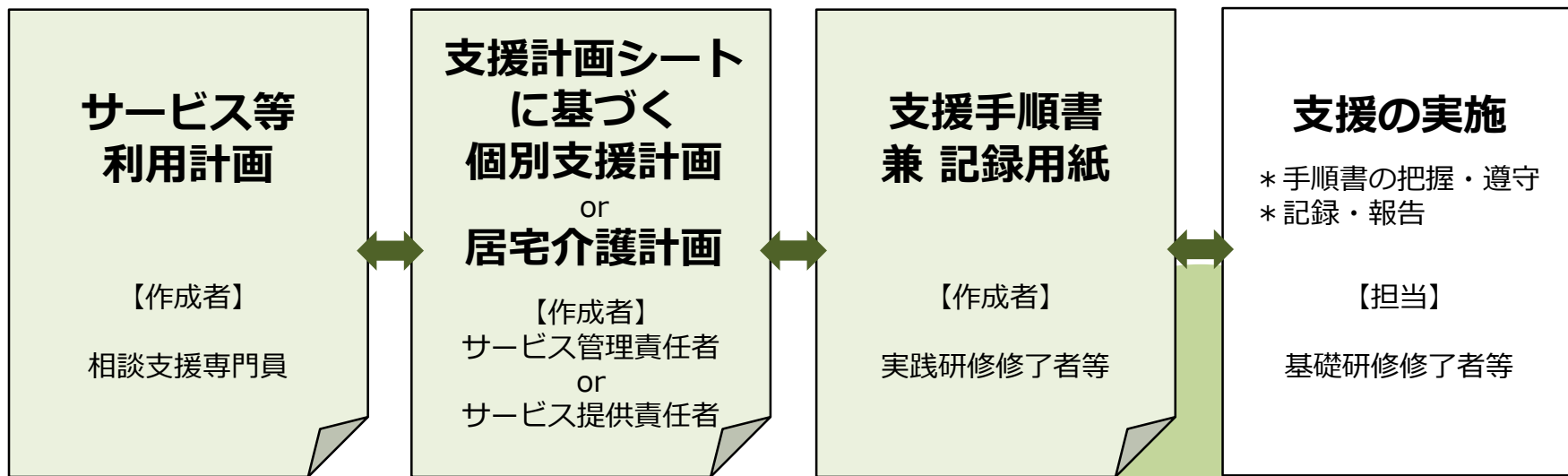
支援の基本的な枠組み

講義のねらい

この時間は、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の役割につて、もっとも基本的なことを理解していただくことを目的としています。

地域において、強度行動障害者支援の底上げを行うことは大切なことです、ぜひ実現し無くてはならない社会的課題です。そのためには、この2日間のこの研修では、不十分であることも事実です。しかし、障害福祉サービスに従事するより多くの人に、まず、強度行動障害者やその家族が抱えている課題を理解してもらい、その支援のスタンダードを理解することは欠かせません。より広く、より多くの人に強度行動障害者の理解を得られることを目的に、この研修が実施されています。

支援の基本的な流れ | 枠組み



- 日々の利用者の変化に応じた細かな支援の変更が必要
- 支援の記録を取り、修正に反映する仕組みが重要になる

サービス等利用計画

利用者名	高崎 のぞむ	障害程度区分	区分 5	相談事業者名	相談支援センター かわせみ
障害福祉サービス受給者証番号	*****			計画作成担当者	国立 希美
地域相談支援受給者証番号	*****			計画開始年月	2013年7月

	月	火	水	木	金	土	日・祝日
6:00	起床	起床	起床	起床	起床		
8:00	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	起床	起床
	事業所迎え	事業所迎え	事業所迎え	事業所迎え	事業所迎え	朝食	朝食
10:00							
12:00	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	生活介護 あじさい	昼食	昼食
14:00							
16:00	事業所送り	事業所送り	事業所送り	事業所送り	事業所送り	行動援護 (ドライブ等)	
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食
20:00							
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

主な日常生活の活動	週単位以外のサービス
<ul style="list-style-type: none"> ・父親がけがをしてから、外出(ドライブ)の機会が極端に減った。 ・生活介護への通所は安定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1回、精神科に通院する。(通院は保護者が送迎) ・1ヶ月に2回、生活介護事業所併設のショートステイを移用する。

サービス提供によって実現する生活の全体像	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護での安定した中活動の継続と、週末の行動援護、月2回のショートステイのり用を進めることで、高崎のぞむさんの生活の広がり家族のレスパイトを実現する。
----------------------	---

支援計画シート

インテーク(情報の収集・整理)	アセスメント(評価)		プランニング(支援計画)
情報 (見たこと、聞いたこと、資料などから)	理解・解釈・仮説 (わかったこと、推測したこと)	支援課題 (支援の必要なこと)	対応・方針 (やろうと思うこと)
<ul style="list-style-type: none"> ●26歳男性自閉症重度知的障害 ●身長172センチ体重105キロ ●高等部卒業後8年間で45キロ体重増加 ●高血圧(100-160) ●14歳の時に近所のコンビニで2歳の子を突き飛ばし怪我をさせている ●その後も学校や施設の外出中に幼児の方に向かっていく場面を数回制止している ●子どもの泣き声はテレビから聞こえても不機嫌 ●外出は、施設の送迎と父親がドライブに連れていく以外に外出経験なし ●DVDカセットのセット作業や洗濯ばさみの袋詰作業など、単純な工程の仕事が可能 ●書類やチラシの封入等、手先の巧緻性が求められる作業は手順の学習は可能だが製品としての完成は難しい ●個別化された作業環境だと、一度に20分から日によっては1時間近く継続して作業に取り組むことが可能 ●休憩時間は他の利用者や職員の動きが見える環境だと落ち着かなくなるため、静養室のソファで横になっていることが多い ●静養室での活動は特になく、長時間休憩が続くと不穏状態になり、頻繁に静養室を出入りし、床を強く叩きはじめる ●写真を使った指示で活動がいくつか理解できている ●ときどき笑顔を見せ、支援員に近寄ってくるがあるが、しばらくしてから混乱状態になる場合もある ●入浴や歯磨(うがい)きが1時間以上たっても終わらないことが多々見られる ●2か月前、歯磨きの中止を指示した父親に、コップを投げつけ、目の大けがを負う(その後休日のドライブが行けていない) 	<ul style="list-style-type: none"> 生物的なこと (疾患や障害、気質など) 中学生から強度行動障害の状態が続いている重度の知的障害のある自閉症 ●生活習慣病の対策が必要 ●健康・衛生に配慮した詳細な援助は行いづらい ●とっさに乳幼児を突き飛ばすリスクあり ●女性や子どもの甲高い声は嫌い ●混乱し興奮すると数時間単位で不穏状態が続く、場合によっては周囲の人が怪我をするリスクあり 心理的なこと (不安、葛藤、希望、感情など) ●一人で行う作業や自立課題は20分程度集中して取り組む ●とっさに何らかの慣れ親しんだ行動を取ろうとする時に静止すると混乱することが多い(大声・床を叩く・頭突き等に表れる) ●周囲の人のとっさの動きに反応し混乱することがある ●刺激が少ない場所で、一人でいることを好むが、30分以上続くと混乱することがある ●笑顔や人のかかわりを求める行動がかならずしも快適な状況の表現とは限らない ●歯磨きや入浴といった活動の終了が理解できない 社会的なこと (家庭、施設・学校、地域資源など) ●両親は愛情をもって接しているが、今後も長期間この生活を続けることの困難さを感じている ●家庭以外での外泊経験は15年以上経験していない ●2年を目処に複数箇所のケアホームの設置が検討されている(行動障害対応が可能か不確定) 	<ul style="list-style-type: none"> ① ダイエットと生活習慣病予防 ② 支援付きの外出手段の確保 ③ 穏やかに日中活動の時間を過ごす ④ 定期的なショートステイの利用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昼食に満腹感を与える低カロリーメニュー ○ 日中活動に毎日散歩の時間を組み入れる(時間や歩行距離は計画的に増やす) ○ 休憩時間に個別に深呼吸の練習 ○ 相談支援事業と行動援護利用の調整(早急のサービス開始に向けて) ○ 行動援護事業所と具体的な支援方法の確認(支援員が複数回同行予定) ○ 1日に作業1種類、自立課題6種類を準備 ○ 1日単位の個別のスケジュールを当面固定 ○ スケジュールの伝達方法を調整 ・スケジュールの提示場所は静養室 ・3つ程度の活動を写真・カードで提示 ・静養室の休憩時間の終わりはタイマー ○ スケジュール変更時に家庭に連絡 ・家庭での影響を確認 ○ 月に2回(各1泊)生活介護事業所併設のショートステイを活用(要調整) ・曜日の固定 ・他の利用者との調整 ・宿泊時に必要なものを確認 ・夜間・早朝のスケジュール確認 ・最初の実施

手順書 (兼 記録用紙)

利用者	高崎 のぞむ	サービス提供日	2013年10月24日(木)			作業者名	赤城 あきら
事業所名①	あじさい	サービス名	生活介護	時間	9:30-15:00	提供者名	榛名 陽子
事業所名②		サービス名		時間		提供者名	

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【朝の準備】 静養室(スケジュール確認)→静養室(着替え)→静養室(休憩) →アラーム(9:50)→作業室
10:00-10:45	判別活動	【DVD組み立て×2回】 作業室(作業15分)→静養室(休憩10分)→アラーム→トイレ→ 静養室(スケジュール確認)→作業室(作業15分)
10:45-11:00	お茶休憩	【お茶休憩】 作業室→静養室(スケジュール確認)→手洗い→静養室(お茶 休憩)→アラーム→作業室
...
14:35-15:00	帰り	【帰宅】 アラーム(14:35)→トイレ→静養室(スケジュール)→静養室 (着替え)→玄関(靴の履き替え)→送迎

チェック	様子

連絡事項

- ・活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- ・静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ・ロッカーは静養室に異動しました。着替えは静養室で行ってください。
- ・前橋さんと、動線が重ならないようにしてください(特に朝、休憩時間)

問い合わせ事項

(参考) 行動制限および身体拘束の記録例

ご利用者氏名： Aさん

行動制限および拘束の具体的な内容
どの条件で開始し、どの状態で終了するかを明記

実施する行動制限、身体拘束の内容

- ① 車いすに座って食事をする際にベルトをつける、食事終了後に外す。
- ② 傷を触る行為が繰り返し続くようならミトンを着用する、傷を触る行為が30分以上見られなかったら外す。
- ③ 夜間に便を触ってしまうので、就寝前につなぎ衣類を着る、起床時は脱いで着替える。

日時	時間	内容	対応者	その他
○/×	8:30 ~ 9:15	① ベルト着用	支援員B	
△/×	14:00~ 18:00	② ミトン着用	着用支援員B/外す支援員C	手首がきつく跡ができていたので注意する
×/□	22:00~翌7:00	③ つなぎ衣類	着用支援員B/外す支援員C	
/	: ~ :			

行動制限および拘束を開始した時間と終了した時間

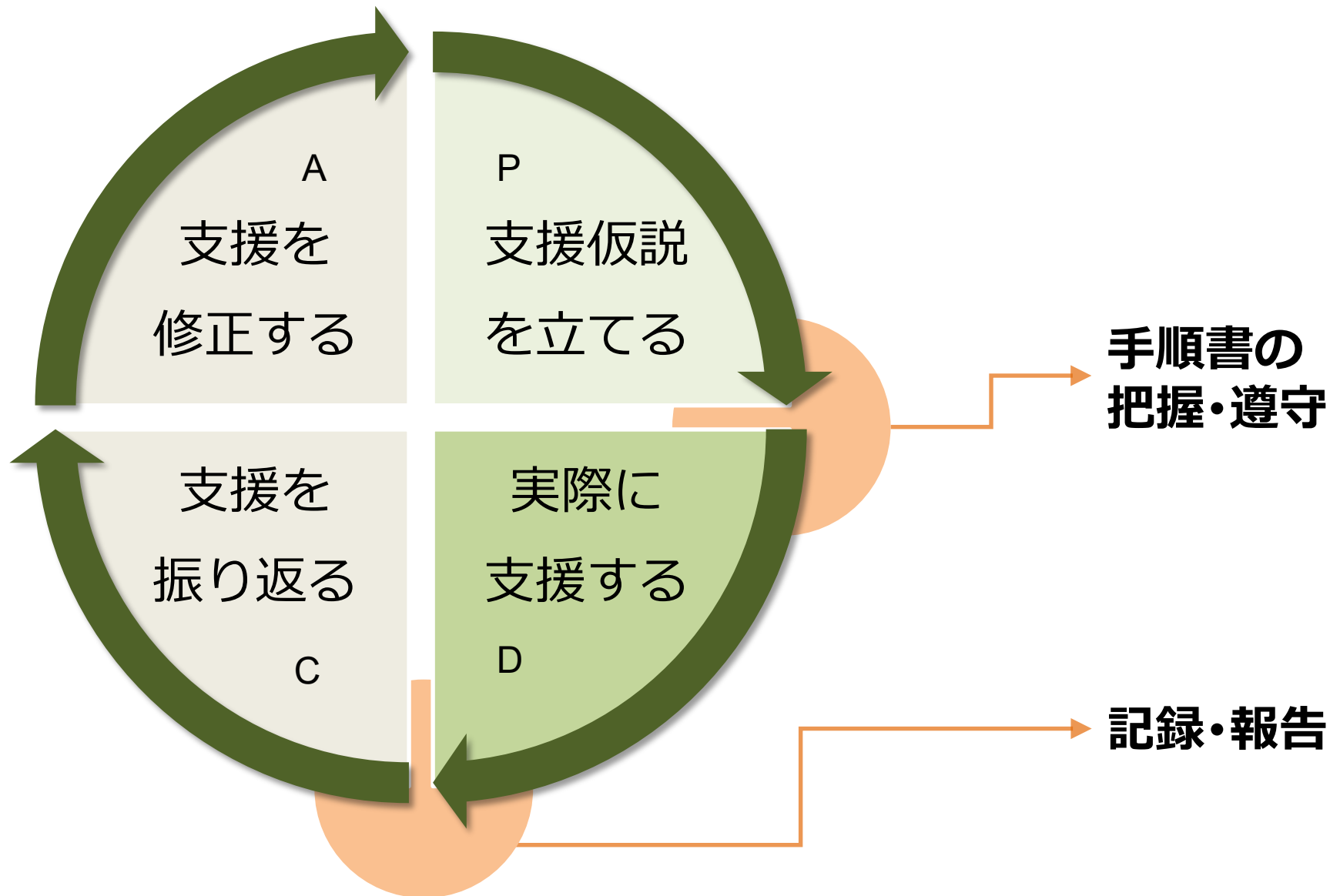
対応した支援員、複数の支援員が関わる場合は複数名を記入

本人の状態に変化がある場合など特記があれば記入

* 上記の例は、「北摂杉の子会」で使用している様式です。

管理者	サビ管

支援の基本的な流れ | 日々の支援



記録は支援を振り返る上で 欠かせないもの

記録を続けるために

- 欲張らない
- 何のための記録かを明確に
- 期限を設けて、チームで振り返りの機会を
- 振り返り（ミーティング）は時間制限を
- 次の振り返りの日程とそれまでのタスクを決める

記録をつけやすい工夫をする

- 今使っている記録を活用する（例：日誌の枠の追加）
- 記録をする場所に記録用紙を置く（例：トイレの横）

まとめ

- サービス等利用計画や個別支援計画と、実際の支援の間には開きがある
 - 支援の現場では何らかの「手順書」が必須
 - 「手順書」にはいろいろな形がある
- チームで一貫した支援を行う
 - 勝手な判断で支援の方法を変えない
- 記録を取り、まとめ、報告することで支援のサイクルを回す
 - 記録は継続できるように無理のない形とする
 - 最初は慣れなくても、記録のまとめは継続する
- 情報・評価・支援内容等に必要な情報は、サービス管理責任者／サービス提供責任者に質問・確認を